THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年三月十五日

定價金四錢

女學雜誌

第五十四號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●（女學叢誌）○矢田部良吉氏の女子敎育說に就て（前號の續き）●（中外新報）○十數件●（學藝一斑）○年月の事●（手藝一斑）○毛糸編もの圖解●（列女傳）○歌妓小万の傳●（雜記）○明治女大學○學校、家庭、女子輕思微傷手當法○婦人の心得（一、勿れの譯）●（新作物語）○海上の奇偶●（家政要報）○木綿を晒す法○梅花の貯蓄法○白米小賣相場●（御伽草）○不孝の報○數學問題○考へ物の題●（寄書）○山尾すゑ子の文○女學校敎科の問の答（前號の續き）●（英語獨修）○ニユーナショナルリードル直譯

女學叢誌

○矢田部良吉氏の女子敎育說に就て（前號の續き）

福原遜軒稿

抑も高等敎育の女子に害ありとする所以は何故なるか女子をして高尚の學問となし餘りに精神を使はしむる時は身體を損ない遂に子孫の發生を害するがゆゑなりとの事ならんには何故に高等の敎育は男子に害たらずして女子のみに害あるや蓋し女子は心體ともに男子よりも虛弱なるがゆゑにその害を蒙ふる事もまた隨ひて男子よりも大なりとの事なるべしさらば精神を用ふる事の身體の發育を害するは女子のみに限るべきにもあらずしてその害を受る事の輕重こそあれ男子に於てもまた多少の害なくんばあらざるなりされば高等敎育の害たる所以は男女一なりといふべし男子は假令身體の虛弱なるも少しも子孫の發生に關はるところなしとせん歟さるにても男女相待たずんば如何でか子孫といふものゝ生ずべき男子たりとて體質の虛弱ならんには其子の發生もまた充分ならざるべきは女子と異る所なかるべしさらば高等敎育の子孫の發生を害する事もまた男女一なりといはざるを得ず然るを矢田部氏の說のごとく婚嫁せずして自己の力に食まむと決心したる女子は高等の敎育を受くべきも一般女子の敎育をして斯のごとく高尚ならしむべからずといはんには男子にありてもまた然らざるを得ず乃ち婦を娶らずして自己の力に食まむと決心したる男子は高等の敎育を受くべきも一般男子の敎育をして斯くのごとく高尚ならしむべからずといふを得べきなり氏はまた「女子は其天性に戾りて有名なる政治家となりまたは高尚なる學者となりて人の母となるべき職分を拋棄せんよりは寧ろ有名なる政治家高尚なる學者などエライ人物を產むことを勤むるを以て萬々勝れりとせ」といはれたれども女子の有名なる政治家（爰に高等敎育といふは重に女子に職業を授くるとの意にして政治家となるは之を以て職業となすべきものならざれば女子高等敎育論に關るところなかるべけれども矢田部氏の演說中にあると以て假りて爰にいふのみ女子の政治家とな

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る事に就きては余は別に論ずべきよしもありて穿ちに女子の政治家となると喜ぶにはあらざるなり）高尚なる學者となりたらんよは人の母たる職分を捨ずんばあらずとの定りもなかるべくまた有名なる政治家高尚なる學者は高等の教育を受けたる女子の腹にやどるものならずとの道理もなかるべし殊に高等の教育を受くるは女子の天性に戻るといはれたるは眞に學理に叶ひたる説あるや否さるべき道理と示されざりしこそ憾みなれ果して氏の説のごとく女子は男子と均しく高等の教育を受くる事叶はずは是れ天性なりといはんには女子は到底男子と同等の地位よ立つべからざるものにして女子の男子に劣り男子の女子に優れるは天性なるべく優れるもの〻尊く劣れるもの〻卑くかるは自然の道理なるべければ男尊女卑は天性に出たるものといはざるを得ざるべしさては同じ人と生れながら男子と並び行く事の叶はざるは女子の身に取りていと口惜き事の限りといふべきなりまた氏はドクトル、ムールがベーコンの母氏は頗る才能ありしもノーヴム、オルガームを書ざりしが此書を著はしたるベーコンを産みたりといひしを引きまたリントン婦人のゲーテの母氏はフハウストを書き得ざりしも此書を書きたるゲーテを産みてよく教育せしなり凡ろ

世界の英名なる人物の傳記を讀むよ此等の人物は大概賢母の腹より出たるものにして賢明なる父は賢明なる子を持ざる事多けれども賢明なる母は總て賢明なる人物を産むものなりといひしを引きてさて「婦人の教育は其身體も其精神も人の母たるに適當なすやうに養成するにあり」とはいはれたれども如何なると人の母たるに適當すといせらる〻にやあるらんたゞ健全なる子を産むのみを以て乃ち母たるに足れりとならばいざ知らず若しさらずとならんには高等の教育をも受けて才能ある賢明の母たらんをこそ人の母たるに適當すとはいふべけれ自から引かれたるドクトル、ムールの説にもベーコンの母氏は頗る才能ありしといひまたリントン婦人も賢明なる母は總て賢明なる人物を産むものありといひたるにあらずや才能といひ賢明といふも教育に由てこそ之を得れ生れながらにして才能もあり賢明なるものは世よいと稀れなるべしさるを爭でか穿ちに婦人は高等の教育を受るに及ばず人の母たらば乃ち足れりといふべき蓋し氏のこの二人の説を引かれたるはベーコンの母氏はノーヴム、オルガームを書かずゲーテの母氏はフハウストを書かざりしも是等の書を著はしたるベーコン、ゲーテを産みたりといふと片腕と頼まれたるべけれど何ぞ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

必ずしも書を著はさゞりしが故に其子の賢なりといふを得べき好また假にさる事のありとするも二氏の母のノーヴムオルガーム若くはフハウストを著はし得たらんには其子の賢もまた二氏の賢に勝りたるやいまだ知る可らず(以下次號)

◎中外新報

○皇大后宮還啓　皇太后宮には去る十二日午前七時に横濱御着艦同九時四十五分別仕立の汽車にて新橋停車場に御着是より先き皇后宮は御迎へとして同所に行啓あらせたり此日皇太后宮には從來の御衣裳を召させて白絹に鶴の模樣ある蝙蝠傘を携へ玉ひ皇后宮には殊に美麗なる洋服を召させ同く緋の紋綸子樣のものもて張りたる傘を携へさせ暫時樓上に御休憩の後御別列にて同十時三十分青山御所へ還啓遊ばされぬ

○大日本音樂會　嘗て本誌にも記したる同會は追々入會するものも多きよしにて來る十七日山下町なる鹿鳴館に於て第一會を催ほすにつき目下專ら準備中なりと聞く

○丁亥會　は續々加盟せらるゝ婦人方多きよしあるが是まで毎月一回または二回位づゝ水交社に於て舞踏の演習會ありしを今度改めて毎土曜日に會して練習ある事となりしとか

○カートメル氏及び宇佐美孃　麻布の東洋英和女學校の英學教師たるエム、ジエ、カートメル女史は昨年の夏ごろより腦病に罹り一時は餘ほど惱まれたりしが昨今は大に快よき方なれども教員の事務には堪へ兼るとて來る四月頃一まづ本國へ歸らるゝ由されど同女史の代りには直ちに米國より來るゝ筈なりといふまた同校教員たる宇佐美延枝孃は今より專ら自己の勉學に從事せらるべしとて一まづ同校の教員を辭し去られたるよしに聞く

○歐米男女人口の比較　近着の新英國教育雜誌に左の表を掲げたり乃ち男子千人に對する女子の數を上たるなり

英蘭土及びウエールス	千五十四人	ホンガリー	千二人
スコツト蘭土	千九十六人	瑞西	千四十六人
アイルランド	千四十四人	魯西亞	千二十八人
スエーデン	千六十七人	佛國	千八人
ノルエー	千三十六人	ベルギー	九百九十五人
デンマーク	千二十六人	イタリー	九百八十九人
阿蘭陀	千二十九人	セルビヤ	九百四十人
獨逸國	千三十九人	グリーキ	九百三十三人
澳太利	千四十一人	全歐洲	千二十一人

米國合衆國は男子千人につき女子の數九百六十五人なりとあり我が邦にては如何なる比較なるや次號に掲ぐべし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○千葉婦人會（千葉なる社友より特報） 千葉縣千葉町にてハ先頃より同地師範學校の女敎師厚木倉子同田村銀子産婆高梨美津子などの發起にて千葉婦人會といふを設け去る六月はじめて師範學校女子部の敎場を借りて發會せりこの會ハ毎月一度づゝ開きて會するもの互に見もし聞きもしたる事を話し合ひまたそれ〴〵相應の人に頼みて衞生、敎育、裁縫、料理、家事經濟などの談話を聞きて智識を弘め且つハ婦人に適當しき運動をなさんとの主意にてその發會以來の摸樣を見るによくその主意に叶ひて高尙に走せず卑野に陥いらず會員ハみな樂みて互ひに智識を弘むるの實益を納め益々盛んなるべき趣きあり此地方に於て女風の改進ハ是よりして顯れれん

○共立女子職業學校 にてハ目下寄宿舍規則改正の草案中のよしなるが規則改正後ハ寄宿生等の食物の調理またハ衣服の洗濯等ハすべて自身にその勞に服する事となるよし

○日本英學館 神田猿樂町の同學館にてハこれまで男子のみに敎授なし來りしを我が邦の女流をして歐米の文化に浴さしめ有爲活潑の元氣を養成すべしとの目的を以て今度更らに女學科を設けたる由なるが追々女子の敎育に着手するものゝ殖えるハいと喜ばし

○北海道土人の貞操 北海道土人ハ今尙ほ無智矇昧にして蠻野の民たるハいふまでもなく風雨霜雪みな神の爲すところなりと信じいと愚かしき事多かれども何事も神に歸し神を信じ神を恐るゝ事の深きより自然品行等も正しく殊に女子の貞操なるハ最も著顯し例へば人の妻となりたるものその良人の病死せる事ありて寡婦となりたる時ハ是まで住みし家ハ素より日用の諸物品皆燒き盡して新に他所に小屋を造りてこれに住み他人も此寡婦を賤しみあなどる事なく偶に此寡婦が他の人と通ずる事などある時ハ數多の土人集ひ來り痛く鞭うちて懲らしまたハ他所に放逐せる等の事あるより醜行ある婦人ハ殆むどこれなく婦人の貞操にして業務に勉强なるハ内地の婦人の及ばざる所なりと北海道なる某氏よりの書中に見ゆ

○商家に勸告 府下十五區内にて學校學會の多きハ神田區を以て第一とし次ハ牛込區芝區麴町區本鄕なれど日本橋區京橋區淺草區などにハ公立小學校の外著るしき私立學校もなくていかにも嘆かハしき次第なればとて敎育に志厚き或る人〴〵ハ右の區内の豪商大家に說諭して女子を敎育せる學舍とも設立しその他學會なり協會なり談話會なども設立あらしめんと頻りに盡力中なりといふ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◎學藝一斑

○年月の事

米國 ウヰリヤム、セルドン述
台陰生譯

〔年の事〕 年の長さは全く三百六十五日五時四十八分時四十九抄時と一抄時の十分の七にしてこれ地球の大陽を一週し終る間の時間なり凡そ西暦の紀元前四十五年のころ（今より凡そ千九百三十餘年前）ジュリオス、シーザーはアレキサンドルの理學者ソシヂチスといへるもの々助けにより精密に一ケ年の長さを知り前に記したる端數の時間を除かんが爲に一ケ年の長さは平年は三百六十五日となし第四年目毎に三百六十六日と定めたるより自然の日數を勘定の爲めに設けたる日數との二つとありたれども斯くの如くなせし時は第四年目に當る毎にその年の中の一日は自然のものよりも十一分時十抄時と一抄時の十分の三ほど多くなるが故にこの餘分の時間の初る時を以てその年の初めの日の初まりと定めたりこれとシーザー日と唱ふ扨て西暦紀元後三百廿五年ニースといへる所に於て會議せし時は春分は恰も三月廿一日に當りたりしが羅馬法王のグレゴリーはこの時より紀元後千五百八十二年迄に十日の違ひを生じ三月十一日が春分に當る事を發見し從來の誤を正さんが爲め其年（即ち千五百八十二年）の十月五日を十五日となし向來これに由て日を數ふべしと定めたりされども猶百年間に十八時三十七分十抄時を餘すゆゑに百年毎に四を以て除し得られざる年（即ち千七百年、千八百年、千九百年、二千百年、二千二百年等の年）とは閏年となすべからずと定めたり（斯くなさゞれば是等の年は皆閏年に當る）之を言ひ換る時は即ち四百年間毎に三たび前の餘りの時を引き落すの法なり斯て耶蘇舊教を奉ずる國々にては此グレゴリー暦法を用ひたれども新教國にては用ひざりしが爲め此暦法を英國に用ひしは漸く千七百五十二年にして此時從來のジユリアン暦と新暦のグレゴリアン暦との差違は十一日なりしされば國會に於て其年の九月三日をば十四日となし四箇の百年目の中三箇は閏年となすべしと議決せり千八百年は閏年たらざりしが故に今は新舊暦の差は十二日にして新暦の一月一日は舊暦の十三日に當れり當時耶蘇教國の中舊暦を用ふるは魯西亞のみなれば同國にては月日を二樣に記す例なり乃ち十二月〔十二日／廿四日〕或はまた〔千八百八十六年十二月廿八日／千八百八十七年一月九日〕の如し英國にても國庫の計算には舊暦を用ひ古代は三月廿五日を年の始となしたる如く大藏省會計年度の始は四月五日なり

（未完）

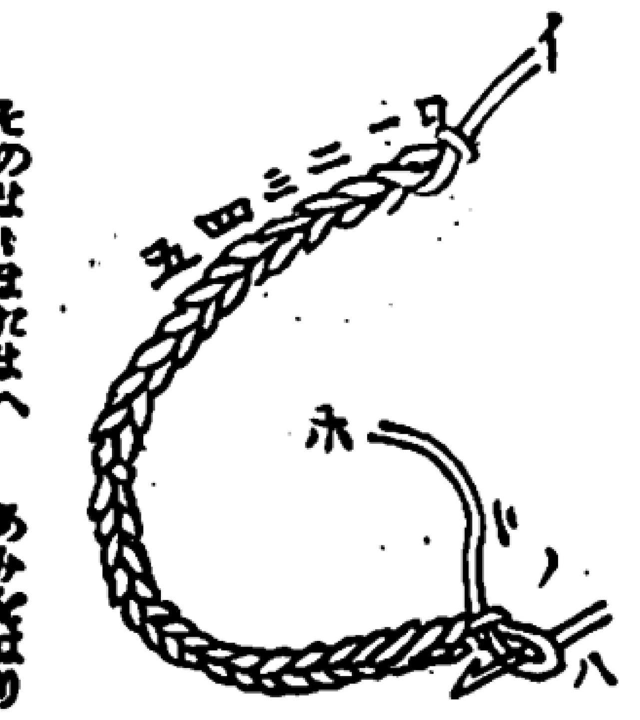
Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎手藝一斑

○毛糸編もの圖解

腕ぬきの編方　腕ぬきを編むには先前號に說きたる如く連鎖をあみ(其長は腕の廻の寸方を取り其長さに編むべし)さて其編初(イ)と編終(ハ)とは第四圖の如く續けて編むべし其續ぎ方は第五圖の如く手にもちて第四圖の如く編終の輪と鈎針に貫きたる儘編始めの(一)の穴の中なる○印の所へ鈎針を入れ鈎にて(ニ)の糸を掛けて其穴より抜き其抜きたる輪を其儘又前の編終の輪へ抜き扱て其次は(二)の穴より糸を抜き(是にて針にある輪は二箇となる)鈎にて糸を掬ひ其掬ひたる糸にて鈎針にある二箇の輪を一所に編み(卽ち掬ひたる糸を二つの輪に抜通す事なり)又(三)の穴へ糸を抜き糸を掬ひ二つを編む幾度も斯の如く好みの長さまで編みて止る時は糸を切りて引抜きよく締おくべし

第四圖



第五圖

◎列女傳

○歌妓小万の傳(前號の續)

油染たる手おし拭ひながら遽だしげに戸口引あけて入り來るが夜前遲くてまだ覺たまはずとや然らば今ひとつ二つ濟せてこそといふ〱出行くは髮結ふ女なるべし二階にはとく此聲を聞きとりて今そこにといへど彼方は聞ず顔して出ていぬ早う覺ては居れど彼云れける答への物むつかしうはしたなき心地せられて躊躇ふ程なれば頓にも起出ず長やかなる煙管かいとりて烟吹きつゝある間にまた戸口の方に人の氣はひす結ひ果てや來ぬると驚かれて寐衣の上に羽織うち着てやをら降て窺へば彼昨日來つとかいへる人の火鉢の傍にありて主人と物語るなりよくは聞えねど善は急げとしも云ふなるになどされ猶豫ておるやらむ抔訝るとさな云れそ我とても寄方なくてありしを見も棄ず年久しく斯てこそあれ下の心の計り難きに疾く々と急がむも心づきなしさはれ長くとしも云じ今日晝過る比には必ず思ふ處をも問ひあきらめてなど云宥むる間に手洗ひ口嗽ぎなどし果て歸り登り來つゝ櫛笥とう出て其心構へす此うち向ふ南の窓よりいくらも隔らぬ高き家も同じ流れの人の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

住むと覺しくて十三四ばかりにや最若やかなる聲ながら節などもいとをかしげに語り出るを心ともなく打聞けば

思ふに添で思はぬになげの情も戀もせで逢瀬をまつとゆふ月の身は空蟬のあしもとは跡に引るゝ乱れ髪

あやし彼三勝とやらむのうへをゑりて聞の方の心のくるしさを語るとは反對にてこなたは思ふ人のゐたにもき引れむのおらましながら道にさも云放ちがたう思ひ煩はるゝをあはれとも汲めかしなど微音にうちかこつ下に來居たる人は疾く歸りぬるなるべし聲さへ絕ていとゞ物に紛れぬ一節の限なきを彼方にも聞くにやわらむ音もなし

此菊の花も美しう咲乱れて居るゆゑこむな花は有るまいと思ふうち、いつの人のながめとなる、あだ腹の立つ菊の花

晝過る比までと契約りて歸しつる彼一件の荅へのさも苦しげなるは故こそあらめと思ひ渡すに就て熟この頃の体に注意くれば怪しき事のみぞ多かる苟且の情に心移すやうの者ならぬは我も能く知れど悅びて荅すべしと思ひし事の斯むづかしげなるに多久とかいふ人の一夜もかれず此處彼處より招るゝは古より深く契れる人杯にてやあらむ今更に厭るゝ身となれる恨めしうも憎うも思はるれど深川の家を出しよりなす事もなく斯てありしと思ひ返せば我しめのうちの花なりとてむげに折やつして打枯さむとは爭か思はむ彼花つくりぞなれる與茂七とかの半七の昔の唱歌よ思合せてうち假托しも誠に我上に似たるぞかし強て夜前の荅きかむといはむよりも今日を限にて只絕なむところ云ひてまし然らば又彼方にても限なく思ふ處とうち出もやすらむなど千々に乱れて分くかたなし

思はざりまし此耻辱今の此身はすてくさや二人の緣をさつぱりと切ても切れぬ浮草やよるべ定めぬ戀の闇

實隣家に歌ふは我爲のよき師なりけりなど獨ごつほど髮結女も來て歸行くめり朝飯はてゝ湯にや行らむ此方に少し語るべき事のあれば疾せず[illegible]と下より云へば暫時して心地の勝ず侍れば物もほしからず況て湯はと云ひさしたる聲音のうち濕りたるはさこそと推量らるれど晝も間近かるべしと心急ぎのせられて登りつゝ今朝何某の荅へ聞きに來たるは知てぞあるらむさて多年思ひ交したる事の深さに我獨はなれ難う思ひて諸侶にとは語り聞えしかど猶よく思へば其はあしかりけり此比打續き招せ賜ふも古く故ある人ならむに心もつかず只管に勸めしはいとはしたきわざなりし然れど一筋にうち連てとのゝ思ひなりしも懷かしう棄難き餘りにてひたふるに妨げむとの

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

腹黒きこゝろあらぬは汲分ても知れよかしと清げにいへば女はなか〳〵に斯う隈も殘さず見え知られたるが傍は嬉しきものゝいとつらくもつゝましくも思へば泣になきて顔も擡げず漸に涙おし拭ひて今更にこゝろ淺さをも咎めずさいはるゝよなどかは背かむされど彼人にも家にかゝる人ありとは夢にも告ねばこの概略を包まず語りて互にうしろ安うせむは如何あらむといへば其は能くこそ思ひ寄りたれ切れぬ絶えぬといふもたゞ斯のみにては驗なければ道ゆきぶりにも語交さじと誓ふとも折節の音信ばかりは許さるゝともそは先の人に委せて此方には毫もとむるこゝろなしなど物けなくはいひ放てぞ遉に涙ひまなきとかいまぎらさむ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

とて鏡の蓋ふはひ元結の散ぼひたるを手まさぐりなどする程癖直しといふ物の水打かへしされバ髪掛の袖もうちそぼたれぬるを見て盆にかへらずとかいひしも實とて下り行くめり斯て此夕べ多久氏と小十郎と互におりし事ども語りあひて小万を讓るよしといひて堅く契約しかば其隔なくおかき心よめでてや此方にも亦引祝といふ事いと賑ハゝしうして聽て此さとを出して濱町といふ處に迎へとれりとぞ此處に入れる謡ハ小万がお蝶と名あらためて初めて其家にゆけるさまよて猶記すべきとハ此末にいと多かり　(未完)

前號この欄百廿八丁上段十七行目「おすぼ」ハ「おぼす」同下段十九行目の終「くら」ハ「くち」の誤植なり

◎雜記

○明治女大學

神戸相生橋　西詰明道館　堯道春千代謹述

此篇ハ頃日彼貝原益軒が女大學を見て聊か思ふ所あるを以て試に筆を執りたるものなるが文章の拙なると説の鄙なるハ固り予が不才不識の爲なれば敢て怪むに足らざれども彼の壓制の女大學を以て教育せられたる婦女子に對してハ聊の益する所なきに非ずと思ふが故よ江湖諸賢の誹をも顧みず爰に貴重なる餘白を借りて其全文を登載し普く本誌愛讀の女子諸君及び識者諸士の御批評を乞ひ長を以て短を補とんと欲す希くハ予か微意を貧して其拙を咎めず何卒御教示を垂れ玉はん事を偏は御高教御附送下さゝる諸君ハ前記の所へ御郵送被成下度此段併せ奉希望候也

一女子ハ成長して人の妻とも母ともなる者なれば幼き時より能く心を用ひ女たる身の行ふべき道を學ぶべし若し懶怠にして徒に年を過さバ妻となりてハ夫にうとまれ母となりてハ子を敎へ育つる事能はず遂にハ人の侮をうくべし

一夫を大切と思ひよく舅姑に仕ふべし假令夫婦の中睦まじかるも舅姑と和き合ざればいかほど親しき中もつひに割るゝに至る事あるべし

一女たるもの誰の老て姑とならざるものあらんやされバ己が若き時姑に仕へたる心を以て嫁を育てたらんにハ家の内もおだやかなるべし

一夫の兄弟ハ我兄弟に變る事なければ常に長を敬ひて幼を愛くしみ互にむつまじく親しむべし

一母たるものハ子を敎へ育つるをもて第一の職務とす凡て子ハ母の育法によりて賢人ともなり愚人ともなる者なれば朝

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夕に心を用ひて教育をゆるかせにすべからず
一夫一婦は天理自然の道にして人の犯すべからざる法なればよく此理をわきまへて一たび夫婦の契を結びたらば天地の間に於て亦他に夫となし妻となすべき者絶てあらざれば互ひに相親みて睦しく始めの誓をかふべからず
一夫婦の一生は長き旅路をゆくが如く夫婦は互ひの道連にして離れんとするもはなるべからざるものなれば長き月日の間には時により折にふれて心よからざる事あるもなるべく堪へ忍びてさからふべからず
一女は愛を専らとして人に媚ず眞實を以て人に交はりたとひ内に心うき事あるも夫他人に向ひて其色をみせずいつも心よくして人の氣を損ふべからず
一女は外やはらかに内は勇氣をやしなひ操たゞしくして丈夫も之を動すべからざるの志をそなふべし
一嫉妬はいと見苦しき者にして隠れたる互の耻を明るきに出すに異らねば深く之を愼みて若し夫に道ならぬ行ある時は竊に諫めなだむべし一度にして聽ざれば幾度も之を諫むべし妻たる者が眞の愛情を以て之を諫めなば例ひいかなる者と雖も遂には其情を感じて自ら悔ひ改むる事あるべし

一女は常に容形を正しくし起居を靜かにして何事もつゝまやかにものやさしきをよしとす
一女は辞少なきをよしとすと雖もいふべき時に望みていはざるは却てあしゝ斯る時は言葉爽かに述て耻る事かなるべし
一人を使ふ身はまづ己れ使はるゝ身となりてよく心にひきくらべみるべし我つらしと思ふ事は彼にもつらかるべしさらば家婢下僕を召使ふにも心きたなき行あるべからず
一人の妻たる者はつとめて一家の和合を計り常に節儉を旨として内をよく治むるをもて肝要とす然れども節儉とあやまりて吝嗇にわたるべからず
一妻たるものは經濟を重むずべしたとひ夫外にありて勤め働くとも妻内に居て空しく金錢を費すに於ては貧のふざる人も遂に乏しくなるべしされば常に夫を扶け冗費を省きて夫の心を安むずるをもて妻たるものゝ道といふべし
一費を省くとて必用の事を爲さず飢えたる腹を抱え或は人に義務を欠きて妄りに金銀を貯ふるは吝嗇とてよろしからず若し妻たるもの吝嗇ならば一家の者うらみ背きまたは世の人の誹謗をうけ却て幸福を失ふものなり
一夫の家に行きては我親里の事を猥にほめ誇り或は其家の風

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

儀にそむくべからず只何事も其家の習慣を守りて能く家を治むべし若し家の爲よろしからざる事ありと思ふ時ハ其由を夫につげて後之を改むべし

一女にして裁縫の道を知らざる者ハ猶ほ鳥に翼なきが如く嫁して夫の家を治むる事能ハず故に幼き時に裁縫を始め食事の調理客の待遇等に至るまで凡て女の勤むべき業をよく學びおくべし

一虚言ハ人の信用を失ひ身に禍を蒙るもとなれば戯れにもいふべからず若し人常にいつハりをいハゞ眞の事を語るも人敢て之を用ひざれバよくつゝしむべし

一妻たるものが夫の事を語るに賤しめたる言葉をつかふべからざるハ勿論なれども他人に向ひて夫の上を餘りに敬ひていふハ其人に對して禮なきわざなり

一客ある時ものかげにてさゝやきあひ或ハ笑ひ聲を出すべからず假令其人の事を語らざるも甚だ禮を失ふものなり

一人の噂ハいかほど心やすき間たりとも決して語るべからずもし尋ぬる人ある時ハ知りたる事のみを程よく答へおきて成可人の非を隱し善き事を語るべし

一女ハ遽だしきものゝいひざまをなすべからず急ぐ時ハ却てしとやかに語るべし斯くすれば言葉のだれずして分りやすきものなり

一人の談話を聞き居て傍より辭をいだしまたハろの口尾につきてよしあしをいふべからず

一衣服ハ女のつかさどるべきものなればその品ハいかほど粗末なるも洗ひそゝぎを度々し萬の事をつゞまやかにすべしたとひ身に錦をまとふとも汚れ垢染みたるをたしなみの程も思ひやられてみぐるしきものなり

一夫の外より歸り來る時ハやさしき言葉をもて之をあしらひ夫の顔に不滿の色あるの憂ふるの樣ある時ハ別々て懇切にあつかふべし男ハ女と違ひ外に在て多くの人と交はり勤むるものなれバ時として心にそまぬ事ありて氣力のくじける事あり斯る時にハ妻のもてなしによりて胸のもつれをとき夫の心をいさましむる事あり

一夫の遠きところへ行きて永くかへらざる時ハよく留守を守りて日々の事をくはしく認めおき折々に夫の許へ送るべし夫もまた我が家をおもひ居るものなれば妻の便りを見てこゝろをやすんずるものなり無事なりとてうちすておくハよろしからず

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○學校家庭子女輕患微傷手當法

〔挫傷〕すべて小兒の關節に受けたる傷或ひハ出ものなどハ格別に意を用ふべき事なり關節に不審なる腫物など出來たる時ハたとひ左までの疼痛を感せざるもそれが爲め跛足となる事間々ありまた四肢の病ハ長病の懸念あるものなれば直ちに醫師の診察を乞ふべしこの療法中最も要用なるハその肢を休ましむる事なりさてまた最も注意すべき危難ハ關節の焮衝にして若し關節を傷つけ益々腫れ上り益々疼痛を感ずる時ハ第一に水蛭とりけ次に蒸溫ためて全くその肢を休ましむべし然る后全癒の徵候あらはれたらばその肢に適宜の運動をなさしめ乾きたる手を以て摩りまたハ樟腦油をすり込みフランネルを以て關節を綳帶すべし

○婦人の心得(別れの譯)

友人と訣別の辭禮を述ぶるに限りなく長かるべからず階段の上より始めて階下に降るまで一段毎に別の惜まるゝ言語を述べまた戶口に於て幾度も之と繰返しいふハ我が良人なるか或ハ契り合たる戀人の外ハ見送り來れる人をして殆ど逆上せしむるばかりなれば貴婦人たるものハたゞ good-by (左樣なら) と一二度いひて速かに別るゝぞよかる

◎新作物語

○海上の奇遇

倘來園 主人 譯

第五回　思はずも世渡る生計見出しけり

Ellison の宿を立出たるハ短き冬の日の午後四時ごろなりければ倫敦の天氣癖とて霧深くいと鬱々しき海暮に軒並家々の店先にハ既に瓦斯燈に光りを點け目バゆきまでに燦然たり夕新聞の賣子が尖りさる聲してその日の最も新しき編輯なりとて街衢に口々呼びたていと喧すしき中の一人難船のことと呼べるが聞かんともわらで不意く耳に入りたれば思はず立止まるにぞ「Bucephalus 丸難船の事につき尙は委しき報道……辛く生命を助かりたる少女の話……Bertha 丸が Liverpool に着したる最近の電報」と呼びつゝ Evening Champion といへる夕新聞の賣子が Ellison の傍により「難船の最近報でございます一枚買て下さい」といふをも待たず此方ハ片手に一 Penny を取りいでながら片手もて一片の新聞紙と取りつゝやをら街燈のもとにたち寄り難船の事を題せる項りとひらき見るにたゞ「Bertha 丸ハ一人の紳士及びその人の令孃と今一人の船客を Bucephalus丸の難破より救ひあげ今朝 Liverpool に着し其

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

三人ハ直ちに同港の病院に送りて治療中なりと」記したるばかりなれば「何の事だ誤報ばかり」と獨語つゝ新聞紙をバそが儘 pocket に押し込みてぶら〳〵と歩を運びながら此難船の事につき我が身を除きては誰かハこの誤報を正すべきいで直に新聞社に赴き我が目のあたり見し難船の始終を備らに告知らしてんと心づき歩を急がせたるほどに一分時をも經ずて Fleet Street なる Champion 新聞社にぞ到りける Ellison ハ入口の室の片隅にて新聞紙の數を算へてありける十六七ばかりとも思しき僮僕に向ひ編輯人に逢ひ見たき事あれど如何にあるべきと尋ねたるにその僮僕ハ言葉少なく「サア如何でせうか」といひつゝ倘ほも紙數を算へたりしが既てに算へ終り「お逢ひなさる事ハ六かしいかも知れませんがマア Benson さんにお問ひなさい「其方ハ何所においでゞスか」と問ひ僮僕の指示たるを見るに pen をば耳の間に狹みて書卓に對ひたる色白き若人なりければ Ellison ハ編輯人に逢ひ見たき由を告げたるに彼の若人「イヤそれハ六かしい毎日今時分ハ急しい時でスから「私の逢ひたいといふハ外でもない今夕の新聞にある誤報を正したいと思ッて……」といひつゝ pocket より前の新聞紙取出でゝ其項と指示ながら「是こゝに助命し三人ハ病院にて治療中と書いてありますが夫ハ誤報で私ハ乃ちその一人で今朝 Liverpool に上陸し直に此地へ來たものでス」といふにぞ Benson ハ霎時見つめたりしがやをら卓を起ちて左らば名刺とやもてると問ふに Ellison 身邊掻探り漸々にして汚れて裂けかゝりたると一片取出しぬ Benson ハこれを取りて出行きたりしが暫くして立歸り目禮なして「エー Carnbury 氏が丁度手透で居りますからお目に掛ります、何卒此方へ」との案内につれ狹くていと暗き階段を登り二階にいたりたるに一室の入口に編輯人と記るせる標札の掛りたる戸を開きいざ是れへと案内人に誘なはれつゝ Ellison ハ何となく姿體の正されて内に入り見れバ餘りに廣からぬ室内に書物の堆かきまでなる卓ありその前に中年ばかりとも思しき年齢の人が肱掛ある椅子にかゝりながらいと鋭どき碧色の眼もて文子讀むがごとく屹しバし Ellison を打護りたりしが「Bucephalus 丸から助かつた方といふハ貴所の事ですか、全くの事でせうね「さうでございますとも私ハ今朝 Liverpool へ着しましたバかりで而して當社の新聞を見ますに誤報がございますから自身に夫を正したいと思つて參りました「ハア夫ハ誠に………併し當社では何事にも證據を要する事でスが貴所が正實の難船から助命

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

た Ellison さんであるといふ何ぞ證據をお持ちですか」と思ひよらざる尋ねに Ellison は答ふべき言葉もなけれど左りとてもまた道理なり如何にしてか身の證明をば立べき友人とか連來ふん Bertha 丸の船長をや左ては時をも費し手數もかゝりなん如何はそべきと思ひ煩らひたりしが不圖思ひつきたるものころわれ彼の難船の時も遣ひ殘せし金錢とゝもに正しく乘船切符をば仕舞ひおきぬとPocket のい探りやう〳〵取りいだして「是れでお分りになりませうか乃ち私は相違なく Theodore Ellison でございませ「是で得心しましたで免なさいお疑り少して濟ませんが記者といふものは誠に嚴密になさんければならぬもので兎角他人を疑ふ事

百五十五

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

がわりますか而して難船の事につきご報知下さるとハ如何いふ事でございますか「へイ若し正眞の事が出したいのでございますならばお咄し申しませう「お出し下されやァ誠に喜バしい譯でございます私どもハ前にLouise丸で助かッた人の咄しを聞いて居りますが貴所ハ沈沒までの事をご存知でありませうのふ細しい事がお聞き申したいのでヤマァれ掛り下さい而して貴所の見聞なすッた事をれ書き下さるなら別して仕合でございますが「へイよくハ出來ませんが書いて見ませう「宜しいサア爰にinkとへイpenがこゝに紙がありますが餘り長くてハ困りますが何卒二段ばかりにお書き下さい(つゞく)

◎家政要報

○木綿を晒す法　木綿類を晒す法の中物質を損する事の最も少きハポッターース或ハ曹達を溶したる水に浸しおき濡りたるまゝと空氣に曝しれくを良しとすれども斯くてハ隨分時間を要しまたその他にも種々の不便多かるが故に止を得ず化學上の方法に依らざるべからず
總て洗濯のため又染色の褪色るハ染たる染料と酸素と相合するがゆゑなりされば可成丈け之を避くるの方法を求めずんばわらざるなり扨て晒布の法に四箇の順序わり第一ハ織り上るまでハ糸の汚れたるを晒す事なりこの汚れを晒すにハ數時間温湯に浸したる後二貫目の水に洗濯曹達百目石灰三拾目を溶したる濾汁にて數時間煮冷水を以てよく／＼洗ふべし扨て是より第二の順序に取掛るべし乃ち水に溶したる藍などの色の消散する位ゐに強きコロール石灰水に少しばかりの硫酸と加へたる水に浸しまた前の濾汁に浸し斯のごとくする事四五度にして(何れも其度に新たなる溶液少しつゝを増し加ふべし)石鹸を溶したる水にてよく揉み洗ふべし之を第三の順序とぞ是より第四の順序に移るにハ硫酸を沸くなし(布地の質にもよれど大抵六十倍より百倍ハ至る)たる水ハ浸しおくべし乃ち未ざ全く除かざる汚色と植物質の中に含める鐵氣を去る爲なり扨て其後ハ數日間空氣に曝しまた水をかけて酸類の殘りとコロール石灰或ハポッターース等の臭氣をよく去るべし是れ植物質の布類を晒す良法なり(家政全書)

○梅花の貯蓄法　梅の花の莟にても開きたるにても其軸の所より取り花びらの散落ぬやうにして梅干の肉へ幾つも並べて挿し之を瓶又ハ蓋物の中へならべ入れ空氣の入らぬやう目張をなしおけば年中色も香もかはらずまれを一二輪暑中の吸

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

物などに加ふるかまたハ櫻湯の代りにせバ至極面白し今ハ恰も梅花の時節なれバお驗しあれ　（千葉なる社友の報）

○白米小賣相場　一圓につき（一等米）一斗三升六合（二等米）一斗四升三合（三等米）一斗四升八合（四等米）一斗五升七合（五等米）一等六升三合

◎御伽草

○不孝の報　散遊亭圓蝶 述

扨て一席辯じます或る片田舍ふ夫婦のものが大層ご馳走を拵らへまして今日ハ親達も留守であるから夫婦さし向ひでこのご馳走を喰ッて仕舞ませうと互ひに相談いたしまして軈てにこの御馳走を喰卓の上に並べ二人差向ひで食やうと致して居る所へこのご亭主の父親が咳ばらひをしながら歸ッて參りましたから夫婦のものハ狼狽てご馳走をバ皆な喰卓の下へ隱して知らぬ顔を致して居りましるスルと彼の父親ハまた何所へか出て行きましたからサア早くご馳走を出して食べやうと食卓の下を見ますると何時の間にか外に遊むで居ました子供が歸ッて來て食卓の下へ這入り皆んな食べて仕舞て空虛になッて居りましたソコでご亭主が申しますにハア、己が惡い自分の親に食べさすまいとしたから又た己れの子がこんなに食べて仕舞って己れに食べさせぬハ乃ち不孝ものハ不孝の子を持ち不孝ハ不孝と以て報ひらるゝのぢやと後悔いたしましたさうでございます何でも親にハ孝を盡さねば成りませぬ

○數學問題（答ハ今月中）

面積三万五千七百廿一坪の正方形の地所ありその一邊の間數を問ふ

○考へ物の題（同上）

醬油一斗を二人にて同じ程ふ分けんとすれども生憎七升桝と三升桝のみありて他の桝なし左らバ此二つの桝を用ゐて同じ程に二分する仕方ハ如何（千葉なる社友の出題）

○前々號數學問題の答式

60−4＝56
50−1＝49
49/56 /1
　/ 49/
　　7/49 /7
　　/ 49/
　　　0

答　七　人

答者

東京神明竹内哲夫、中村のね子、菊地うめ、松井たけ仙臺伊東近信、岡山高木つる靜岡中根ふもと、熊本大坂つち横須賀造船春海、同梅本さく、新潟縣太田伊太郎

○前々號考へ物答

女ハ「内藏」男ハ「公俊」國ハ「常陸」則ち「朝なけに見べき公俊賴まねばれも常陸ぬ草ま內藏かな（答者なし）第五十一號の答追加（伊豫川の江金川とみ子）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎寄書

左に掲げたるは東洋英和女學校の教員宇佐美延枝孃の今度同校を辭し去らるゝに臨み同校の生徒にて宇佐美孃の教へ子たる山尾すゑ子が別れを惜みて贈れる文ありとて或る人より寄せられたるものあり（因に記す山尾孃は今年二八ばかりなりと聞ぬ）

編者記

うら／＼と四方の山邊も霞たつ春のこの頃君には此をしへの庭に來給ひしの月日の流れよどみなくはや一年になんなりにけるさて去年よりけふとそかのねの長き月日をおしなへてあまたのをしへ子もろとも數ならぬ己れをもおほしたて給ふ事なんいと／＼嬉しう思ふたまへらるゝ己れ此庭にまゐりしはとれまた咲つゝく言葉の花のかず／＼を手折わびて侍りしを今はやゝ色香たくひなき言葉の花を手折かさして君の御前に立出へう成りぬるは君の深きみいつくしみのゑるしところおぼえ侍れ咲花のつゆのめくみをうけし如く心もいさみたちかくて幾年もありなんと思ひしかひもなく君にはこたひみつからの學びの道に立いり給ひてひらけゆく御代の光りもますかゞみ猶ひたすらにみがきたて給はんとてゆくりなくも此庭を立出給ふとのたまひにし時のうらかなしさ今日までいとねもころにめでおほしたて給ひしを又こと人に學びなんはいとはいなき事をくちをしう君に別れなばいかにゆかしう思ひ出侍らんと心くるしうなんされど君にはいとはかなき事にはわらですゑ限りなき學びのみちをつくし給はんとてたち歸りたまふなれば

行く君のわかれわびしくおぼゆれど學びのみちはかくそあるべき」といと祝はしうなんあはれ再び參り給ひてみかける鏡のたくひなき學ひの光りを此庭にうつさせ給はん事とねぎはへるになん君の惠みは咲花におく露よりもあつく侍れど己れはたゞ徒らにのみ返し侍りし事のいとはつかしうなん猶かゝるまほしき事のさはに侍れどはかなき筆につくすへうもあらねば思ふ心をかつ／＼かいつけ侍るにも君に別れなんことのをしくて

春なから露そたもとをぬらしけるわやなきけふの君の別れに」たゞつみなう返させ給ひてふたゝひたいめ給はらん事をねぎ侍るになん

明治二十年三月八日　山尾壽榮子

○女學校教科の問の答（前號の續き）

(十三)土曜日に於て寄宿舍取締の指揮を受け衣服等の洗濯をなすべし(十四)授業時間中寄宿生は許可を得ずして自室に入るを許さず(十五)出塲運動食事等總て細心注意して定時間を誤るべからず(十六)食事時限の號鐘を聞くにあらざれば許可なくして食堂に入るを許さず(十七)寄宿生より他よさし出すべき書状は開封の儘毎朝幹事よ差出すべしまた來信も請附を經ずして生徒自から受取を許さず(十八)寄宿舍取締の承認を受けざるに於ては菓子その外食物を自室に携へるを許さずまた賄方に物品の購求を命じその他何事に於ても代償せしむるを嚴禁す(十九)寄宿生年長のものより取締二人を毎週選拔し諸規則の實行如何を監せしむ(二十)金言を守りて躬行を謹むべし語に曰く「凡そ人に爲られんと欲する事は爾も亦人にその如く爲せよ」○生徒心得(一)束脩金

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

壹圓入學の節さし出し授業料一ヶ月金壹圓寄宿生ハ食料一ヶ月金二圓七拾錢炭油浴湯費一ヶ月金三拾錢ピヤノ授業生ハ授業料一ヶ月金一圓器械料一ヶ月金五拾錢毎月五日限り納むべし但し病氣その他の事故ありて欠席すると雖とも授業料を納むべきものとす㊁諸規則を遵守し專ら品行を正し總て教員及び幹事の指示に從ふべし㊂細心注意して定時間を誤るべからず㊃通學生ハその宿所を轉するときハその都度幹事に屆出づべし㊄通學生ハ寄宿舍中に入るを許さず㊅病氣その他事故ありて欠席する時ハ即日保証人よりその事由を詳記し凡そ日數を定めたる屆書をさし出そべし㊆飮酒喫煙ハ勿論猥褻の言語を用ひまた品行を害する書籍を禁ず㊇生徒ハ午前八時三十分より十二時まで午後一時より三時三十分まで外來人に接するを許さず㊈生徒授業時間中に歸宅せんと欲するものハ保証人よりその事由を詳記したる屆書を持參すべし㊉金錢衣服及び書物等貸借を嚴禁すまた寄宿生のために物品の購求をなし或ハ校外より書帖及び通信をなすを嚴禁す⑪高聲を發し及び笑話しまたハ校内を走ると禁ず⑫教場と轉する時に於て最も靜肅にすべし⑬通學生ハ日曜日午前八時三十分より同十一時まで出席すべし⑭生徒退校の時に當り書籍その外物品を定めたる場所に置かざるものハ取締のものこれをとり上るにつきその罰として金一錢をさし出し物品を領收すべし但し再三犯すものハその都度金額と增加すべし⑮右に揭げたる規則の外その時々必要と認むるときに於てハ口達することあるべし⑯入學の生徒ハ諸規則を謄寫せしめて篤とその意を了解せしむるものとす

（以下次號）

◎英語獨修

○ニユー、ナショナル、リードル直譯

〔第六節〕（復習）第一㊀小兒㊁と㊂犬ヲ㊃見ヨ●㊀夫ハ㊁大なる㊂犬ヅ㊃ある（か）●第二㊀犬ハ㊁大なる㊂鼠ヲ㊃得㊄能ふカ●㊀この㊁牝鷄ハ㊂巢ニ㊃於て㊄ある（か）●第三㊀巢ハ㊁箱ニ㊂於て㊃ある（か）●㊀大なる㊁猫ハ㊂巢ニ㊃於て㊄ゐる●第四㊀猫ハ㊁卵ヲ㊂得るヅ㊃あらう（か）●㊀牝鷄ハ㊁猫ニ㊂於て㊃走るヅ㊄あらう

NEW NATIONAL FIRST READER.

LESSON VI. READING REVIEW

I

シー ゼ ボーイ エンド ゼ ドツグ
See the boy and the dog.
㊃ ㊀ ㊁ ㊂

イズ イツト エ ビツグ ドツグ
Is it a big dog ?
㊃ ㊀ ㊁ ㊂

II

ゼ ドツグ ケン ゲツト ゼ ビツグ ラツト
The dog can get the big rat
㊀ ㊄ ㊃ ㊁ ㊂

イズ ヂス ヘン オン ゼ子スト
Is this hen on the nest ?
㊄ ㊀ ㊁ ㊃ ㊂

III.

イズ ゼ 子スト イン エ ボツクス
Is the nest in a box ?
㊃ ㊀ ㊂ ㊁

ゼ ビツグ キヤツト イズ アト ゼ 子スト
The big cat is at the nest.
㊀ ㊁ ㊄ ㊃ ㊂

IV.

ウヰル ゼ キヤツト ゲツト アン エツグ
Will the cat get an egg ?
㊃ ㊀ ㊂ ㊁

ゼ ヘン ウヰル ラン アト ゼ キヤツト
The hen will run at the cat.
㊀ ㊄ ㊃ ㊂ ㊁

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

束髮用具廣告

束髮用留針（ヘイヤピン） 同龞甲製 ヘイヤペン コロチルス

西洋櫛（コンム） 丸櫛 網 品々 リボン品々 花

メジシルシ

弊家ノ南鄰ニみすやト申同名ノ針屋有之候得共右ノ物品販賣不仕候間彼ノ店ニ御出相成候共御用相辨ジ不申候ニ付上ノ印ノ目標ヲ以テ弊店ヘ御尋被下度此段爲念申上置候也

東京京橋區銀座壹丁目

中村利吉

文部省御撿定濟 小學教科用書

○一品熾仁親王有栖川宮題字○從三位勳二等伯爵柳原前光公序文○從六位帝國大學教授小中村淸矩先生序文○從七位海軍教官永峰秀樹先生序文○水戸栗田寛先生校閲幷序文○栗田勤先生編

新刻日本史略

訂正再版 全三冊

此書上神武天皇ニ起リ下今上天皇御宇ニ終ル著者此書ヲ著ハスノ要旨先ツ國體ノ據テ以テ立ツ所ヲ詳カニシ氣運ノ因テ以テ變遷スル所ヲ明カニスルニ在リ是以テ上下貳千五百年間ノ列聖ノ承統政權ノ變移ハ申ニ及ハス苟モ國體氣運ニ關スル大事大故採テ以テ之ヲ具載セサルハ無シ而シテ其體裁ハ簡明ヲ要トシ其文章ハ平易ヲ旨トス最モ史略ノ體ヲ得タル者ナリ故ニ近來國史ノ略世ニ行ハルヽモノ多シト雖モ方今學校ノ科業ニ適シ幼學ニ益スルモノ恐クハ此書ノ右ニ出ルモノ莫カルヘシ殊ニ今般文部省ニ於テ御撿定之上小學校教科用書ニ適當ナルコトヲ認定セラレタリ世ノ教育家諸君請フ全國各府縣書林ニ於テ御購求ノ上公私學校教科書ニ御採用アランコトヲ

教育書舖 山梨縣甲府常盤町四番地 内藤傳右衛門

内藤支店 東京神田區豊嶋町十五番地 山添榮助

○讀史餘論 從五位白石新井君美先生著 和文科用最良適當書 全六冊

○唐宋八大家文讀本 清 沈德潛先生撰 日本 賴山陽先生增評 木山鴻吉先生纂註 增評 全十六冊

○評註文章軌範 增訂 從七位海軍教官永峰秀樹先生著 全六冊

○筆算教授書 全八冊

○清朝史畧 佐藤先生著 全十二冊

右ハ各府縣尋常師範學校中學校ノ教科書

本誌代價表		
壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同 拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同 二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同 三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同 四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附注之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御通文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ券運便にて御送附あらんことを希ふ●郵替代用ハ壹錢切手ニて一割增し●郵便爲とハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券無ハ本舍へ御送附可被下候 但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 績文舍

持主兼印刷人 松本義弘

編輯人 初鹿野鎌五郎

大賣捌 東京芝區愛宕町一丁目三番地 修正堂

同 神田區淡路町 同 巖々堂

驛遞局認可

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY